

牛農家が小学校で食育「命をいただく大切さ」五感で体験。
児童のエサやり体験 6/2実施（千葉県・旭市立滝郷小）



東日本産直ビーフ研究会の会員である牛農家・糸賀貴志氏が千葉県の旭市立滝郷小学校（以下、滝郷小）で牛のエサやり体験を5月19日に3年生向けに開催しました。また、6月2日には5・6年生に向けて開催を予定しています。

通常の小学校教育において、デジタル教育が進む一方で、現場で人や仕事に触れる体験型の学びの機会はまだまだ少ない状況です。糸賀氏は、私たちの生活と切り離せない「食」を支える生産者と直接触れ合う食育を通じて「命をいただくことの大切さを知ってほしい」と2022年から自ら関わりのあった滝郷小に食育授業を提案。その後、毎年牛へのエサやり体験と、食肉に関わる親子の実話から生まれた紙芝居の読み聞かせ授業を開催しています。

この授業では、子どもたちが実際に現場に行って「五感」で認識することで、食の生産に関する理解が深まると考えています。滝郷小の教職員からは本授業を受けた子どもたちが「食べ物や生産者に感謝をして食べるようになった」「嫌いなものでも食べる努力をするようになった」との声をいただいています。

東日本産直ビーフ研究会は、子どもたちが食の大切さや命への感謝を学べる機会を広げ、食育活動を推進していきます。

エサやり体験と紙芝居で「いただきます！ごちそうさま！」の意味伝える



「本当においしい牛肉を追求し、届け続ける」ことを理念とする東日本産直ビーフ研究会は、地域の高校や小学校で食育授業を実施し、牛肉が食卓に届くまでに生産者がどのような工夫や努力をしているのかを伝えることで、子どもたちが「食」と向き合うきっかけづくりを行ってきました。

東日本産直ビーフ研究会の会員である糸賀氏は、2022年から自ら関わりのあった滝郷小で食育授業を継続して実施しています。2026年5月19日には小学3年生約10名を対象に牛のエサやり体験を開催し、6月2日には小学5・6年生向けにも実施を予定しています。

エサやり体験では、子どもたちが実際にワラやペレットと呼ばれるエサを牛に与え、牛になめられるなどの触れ合いを通じて、牛の大きさやにおい、可愛らしさを五感で感じます。実際の現場で体験することで、子どもたちは「食」をより身近に学ぶことができます。

さらに同年秋には、紙芝居『いのちをいただく』の読み聞かせも予定しています。本作品は食肉業に関わる方の実話をもとにした物語で、牛の命をいただく葛藤と家族の言葉を通じて、「生きるために他の命をいただいている」ということの重みを伝える内容です。また、小学5・6年生にはこれらに加え、牛のゲップを減らすなどSDGsへの取り組みや地域産業に関する講話も実施します。

一連の授業を通し、「いただきます！ごちそうさま！」の本当の意味を子どもたちに伝え、命の大切さを知ってもらう機会となっています。

「命の大切さを伝えたい」滝郷小・校長との会話から食育授業の実施へ

昨今、教育現場ではプログラミングをはじめとするデジタル教育が進む一方で、実際の現場に足を運び、生産者や地域で働く人と直接触れ合う体験型の学びの機会はまだまだ少ない状況です。特に、学校や家庭の外で多様な大人と出会い、地域産業や「食」を支える仕事に触れる機会は限られています。

糸賀氏は、そうした状況に課題を感じる中、自身がPTA役員を務めていた滝郷小で、当時の校長と対話を重ね食育授業を提案。2022年より、ボランティアとして本授業を開始しました。

滝郷小の全校児童は現在約70名ほど。中学校へ進学すると人数規模が大きくなり、周囲に圧倒されてしまう子どもも少なくありません。糸賀氏には、子どもたちが実際の現場で多様な体験を重ねることで、自信を持って成長してほしいという思いがあり、それが授業を始めた背景の一つとなっています。



また、本授業では「命の大切さ」を伝えることを大きな目的としています。私たちが口に
する食べ物は、もともとすべて生きていた存在であり、その命をいただくことで私たちの体は
つくられています。牛と直接触れ合う五感を使った体験は、子どもたちの記憶に強く残りま
す。食べ物やそれを育む存在への感謝を育むとともに、「命をいただいて生きること」の大
切さを、大人になっても忘れない人生の糧としてほしいと考えています。

食育授業の実施後、滝郷小の先生たちから「子どもたちが食べ物や生産者に感謝して食べる
ようになった」「苦手なものでも食べる努力をするようになり、給食を残さなくなった」と
いう感謝の声をいただいています。

食育の活動を研究会として広げ、一次産業の発展や地元への愛着度の向 上につなぐ

東日本産直ビーフ研究会では、本授業のほかにも、習志野市立習志野高等学校（ならしのこ
うとうがっこう）での食育授業や調理実習など、これまで幅広い食育活動を行ってきまし
た。こうした取り組みを通じて、一次産業への理解促進や地域への愛着の醸成につなげるこ
とを目指しています。今後も研究会として食育活動を広げ、食材や命への感謝の気持ちを育
む機会を創出していきます。

■6/2 エサやり体験の実施概要

日時：2026年6月2日（火）13時40分～15時

場所：株式会社糸賀牧場（千葉県旭市岩井1741番地13）

対象：旭市立滝郷小学校 5・6年生

講師：糸賀貴志（牛農家、東日本産直ビーフ研究会会員）

内容：

- ・牛舎での子牛・成牛へのエサやり体験
- ・子どもたちが牛に関心を持つクイズや解説

取材・参加をご希望の方は、下記までご連絡ください。

<東日本産直ビーフ研究会>

tel: 0479-62-1073

メールアドレス：kousha.kase@outlook.jp

担当：加瀬

【東日本産直ビーフ研究会】

「安心・安全だけでなく、その先にある“しあわせ”をお届けする」ことを使命に掲げています。ただ牛肉を届けるだけではなく、日々の食卓から、特別な記念日まで、食べた時に“しあわせ”があふれるよう願いを込めて、生産の一つひとつに丁寧に向き合う約30名の会員からなる組織です。

■組織名：東日本産直ビーフ研究会

■住所：千葉県旭市岩井1967番地（株式会社岩渕畜産内）

■代表者：岩渕 一晃

■設立：2002年4月

■活動：「しあわせ絆牛こそ、本当においしい牛肉だ」

私たちは、皆様にこのように思っていただけるよう

生産・研究・魅力の発信に取り組んでいます。

また、千葉県のプロバスケットチームである千葉ジェッツとオフィシャルサプライヤー契約を結び、牛肉を提供し共に日本一を目指しています。

■HP：<https://shiwase-beef.jp/>

■問い合わせ：0479-55-4511